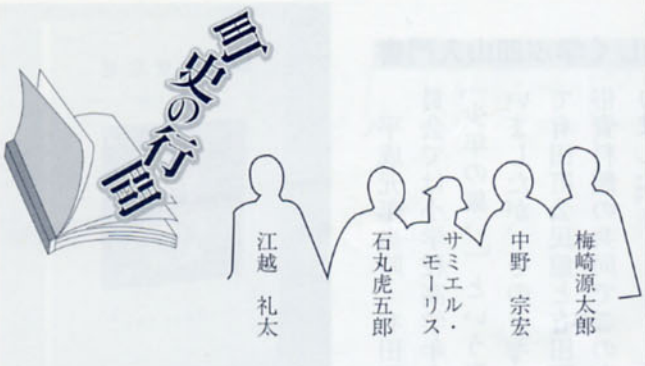


新発見の江越礼太像

有田教育の父、江越礼太の姿は有田小学校校長室にある肖像画で町民のみなさんにはすでにおなじみですが、このほど珍しいまげ姿の江越の写真が見つかりました。「明治２年長崎に於いて撮影」とあるその写真には江越の他に、石丸虎五郎（安世）・英国人技師モーリス・中野宗宏（中野初子の兄）・梅崎源太郎らが写っています。佐賀藩士の石丸とモーリスを除く他の人々はともに小城藩士です。中野宗宏は後に逓信省外信局次長をつとめ、その弟初子は米国・英国に留学し、帝国大学工科大学教授となりました。梅崎源太郎は慶応３年の「小城家来着到」に依れば物成21石４斗５升の侍で、山代郡令をつとめた人です。

この写真が掲載されている資料は明治４１年１月発行の「電気之友　第１９８号」です。石丸についてはすでに「季刊　皿山』42」などで紹介しましたが幕末のころ長崎に遊学して英語を学び、その後佐賀藩主鍋島直正の命を受け同藩士馬渡八郎とともに英国に“密航”し、その前後より有田の人々と交流を重ね有田の近代化に大きな力となった人です。

彼は「山代（伊万里市）の石炭と有田の磁器は肥前の富を興す」ものだとして、明治３年小城藩領だった山代久原に長崎で知り合った鉱山技師のモーリスと赴きました。そこで石炭の開鉱と採炭に取り組む傍ら、長崎で始めた経綸舎という塾を開きました。この写真はその前年に撮影されたものと思われます。

おそらく江越も長崎で石丸やモーリスと知り合い、山代に同行したものだと思われます。江越は経綸舎で塾頭をつとめましたが、ここでは有田の中村無一（久富三保助の兄）・手塚輝雄（手塚五平の義弟）・磯部橘郎（中村無一の弟）・江越孝太郎（礼太の子）などが学んでいます。長崎時代から有田の人々との交流が続く中で、江越の教育者としての資質や理想を知り得た有田の人々は、学制公布の前年に開校した白川学校に招聘しました。その後、日本初の陶磁器工芸学校である勉脩学舎を開校し、その思想は後の徒弟学校・有田工業学校へと伝統が受け継がれていきました。

この写真が撮影された時、江越は４２歳、石丸３０歳。ともに明治という新しい時代の到来に思いを巡らせていたであろうことが感じられます。

（尾崎）

江越礼太に関しては、「有田町史　陶業編Ⅱ、政治社会編Ⅱ」、「江越礼太と勉脩学舎」、「皿山なぜなぜ」、「おんなの有田皿山さんぽ史」など多数。石丸虎五郎に関しては「鍋島直正公伝」、「桜水遺稿」など。江越は白川の共同墓地に、また石丸は東京港区の青山霊園に眠っています。なお、この資料は九州大学経済学部東定宜昌教授のご教示によりました。また、古い資料でしたので不鮮明な写真をいくらかでも見やすいようにと有田工業高校の山口史倫先生にコンピューター処理をしていただきました。

季刊
皿山秋
No. 47
有田町歴史民俗資料館・館報

皿山なぜなぜ　子供から大人まで楽しく学ぶ皿山入門書

B6判109頁　700円
1989年初版　2000年9版

平成元年当時、有田町教育委員会では小学校高学年を対象に「少年の集い」という事業を行いましたが、そのテキストとして有田町公民館と有田町歴史民俗資料館の共同でこの本をつくりました。

執筆は九州陶磁文化館の学芸員をはじめ町の各分野の方々の総力を結集したものです。この本片手に町を散策し、町の歴史や焼き物作りについて50の疑問に対して答える形になっていて、例えば、「陶石はなくならないの？」、「李参平はどんな人？」「有田焼はどれくらいできるの？」など子供たちの疑問に対して2ページ見開きで読みきりとなっていますので、どのページからでも読み始めることができます。子供はもちろん有田入門書としてこの本は活用されており、現在9刷を重ねるベストセラーです。

おんなの有田皿山さんぽ史　女性の視点から見た皿山

A5判136頁　1,000円
2000年初版

開館20周年を迎えた平成10年、その記念事業の一つとして出版しました。有田皿山の歴史を平易に語ることによって郷土学習の手引きとしたいという主旨は、「皿山なぜなぜ」と共通していますが、大きく異なることは執筆者がすべて女性であるという点です。なぜ女性なのか。理由は有田皿山を支えてきた女性の役割に脚光を当てたいという思いと、女性によって語られる有田皿山史には独特の視角があるのではないかと考えたからです。さらにもう一つの狙いは当館が拠点となって、住民と行政による「協働」の実践例とすることにありました。22人の女性の他に巻頭エッセーは芥川賞作家の村田喜代子さんに「龍祕御天歌」の取材で有田を来訪した時のことを書いていただきました。

有田皿山写真館　～近・現代史を生きた女性たち～　目で見る有田皿山の歴史

A4判119頁　1,570円
1998年初版　1999年2版

「さんぽ史」の姉妹編として、また平成10年度に行った企画展「なつかしの有田～1000点の写真が語る有田の近・現代史」の際に収集展示した古い写真をもとに、女性に脚光があたるような編集を心掛けてみました。

項目別につくる・あきなう・リーダーと家族・いくさの時代など、焼き物生産や毎日の生活に関する分野の230枚を採り入れました。最も古いものは幕末のころと思われる田代紋左衛門とその妻の姿です。おそらく貿易のために訪れた長崎で撮影されたものと思われます。同じくまげ姿の八代深川栄左衛門も今回初めて発見されました。窯場の仕事をこなしながら、日常の生活を支えた有田の女性の逞しく、かつしなやかに生きてきた思いを感じとってください。

その他の出版物

この他に次の書籍を有田町歴史民俗資料館で取り扱っています。

- 有田町歴史民俗資料館・有田焼参考館　研究紀要　3号　1570円
- 有田町歴史民俗資料館・有田焼参考館　研究紀要　8号　1570円
- 有田町歴史民俗資料館・有田焼参考館　研究紀要　9号　1570円
- 有田天狗谷古窯　5250円
- 佐賀県有田町山辺田古窯址群の調査（遺構篇・遺物篇）　5250円
- 清六ノ辻2号窯跡　1570円
- 窯の谷窯跡　1570円
- 小溝中・小溝下・清六ノ辻1号窯・清六ノ辻大師堂横窯　1570円
（町内古窯跡群詳細分布調査報告書第1集）
- 一本松窯・禅門谷窯・中白川窯・多々良2号窯　1570円
（町内古窯跡群詳細分布調査報告書第3集）
- 向ノ原窯・天神山窯・ムクロ谷窯・黒牟田新窯　1570円
（町内古窯跡群詳細分布調査報告書第4集）
- 小物成窯・平床窯・掛の谷窯　1570円
（町内古窯跡群詳細分布調査報告書第6集）
- 小溝上窯・年木谷3号窯　1570円
（町内古窯跡群詳細分布調査報告書第7集）
- 天神森窯・小物成窯　1570円
（町内古窯跡群詳細分布調査報告書第9集）
- 枳藪窯・年木谷3号窯　1570円
（町内古窯跡群詳細分布調査報告書第10集）
- 有田内山伝統的建造物群調査報告書　3150円

※研究紀要や古窯跡の調査報告書は絶版になったものもありますが、閲覧はできますので、有田町歴史民俗資料館までお問い合わせください。

有田の“ものしり博士になろう！”

2000年読書の秋

○★○★○★○★○★○★○★○

出版案内

有田の街を散策する人が目立つようになりました。私達町民ひとりひとりが「有田の良さ」をＰＲしたいものです。

街で顔をあわせたら「やァ、今日は！」と笑顔で挨拶。そのためには「ものしり博士」にチャレンジ！

有田町史

11年の歳月と8300万円の巨費で完成

昭和48年、町議会で、有田焼創業３５０年祭事業の一環として刊行することが議決されました。

有田町史は通史編・政治社会編・陶業編・古窯編・陶芸編・商業編など10巻、別編1巻（皿山の方言）から成り、総頁数は５６３２頁にもなります。

執筆者は三好不二雄名誉教授を委員長に、杉谷昭教授、池田史郎講師（以上、佐大）、下平尾勲福島大教授、山脇悌二郎青山学院大講師、仏坂勝男県文化課、前山博九州陶磁文化館学芸課長、永竹威有田陶磁美術館長、小宮睦之佐賀北高教諭、大橋康二九州陶磁文化館学芸員の方々と町内各学校の先生方、事務局も担当した宮田幸太郎（役職は当時のもの）という錚々たる陣容です。読みやすく、わかりやすく、学問的研究批判に耐え得るグレードの高い内容です。

Ａ５判　全巻揃　31,500円
1990年初版

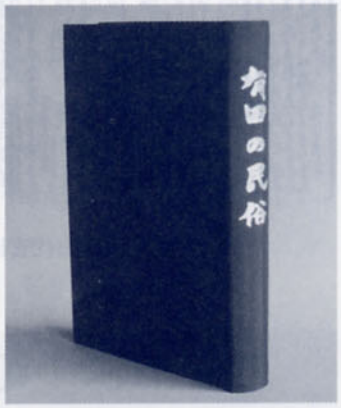
有田の民俗

“有田の暮らし”のすべて、ご家庭に是非１冊を

ご家庭に是非備えて欲しい一冊です。

この本は、駒沢大学倉田芳郎名誉教授を中心に、平成３年より４ヵ年をかけて、有田の年中行事、口承文芸、民間療法など実地調査された苦心の作です。

皆さんは次の20の質問のうち、いくつ答えることができますか【窯業】①アラシコ②ノベアゲ③トンボ④トンパン⑤チョッパゲ【家族の呼び名】⑥オトッツァン⑦オヤガカサン⑧オンチャン⑨スソムスコ【子供の遊び】⑩オザッコ⑪イチレッランバン⑫トーバタ⑬シッケンギョ【年中行事】⑭元旦の茶ノライ⑮山登り⑯戸矢の花炒り⑰ナマコ餅⑱下南川良山の祇園【口承文芸】⑲七福神の歌⑳ドンバン節（答えは本の中に）未婚の女性がナマコ餅を食べたら嫁に行けない等々、有田の暮らしが書いてあります。



Ａ５判514頁　5,000円
1995年初版

有田の古窯

古窯跡発掘調査の集大成

町内の至るところにある古窯跡は、世界に誇れる文化遺産です。

古窯跡群の詳細分布調査が昭和62年以降10ヵ年計画で実施されました。

この報告書は10ヵ年に渉り発掘調査した窯跡50カ所の報告です。

内容は窯跡の推定年代、製品、窯道具、窯詰めの特徴、窯体、物原、平面図など要領よくまとめてあります。

窯跡は楠木谷窯跡、枳藪窯跡、年木谷窯跡、天狗谷窯跡、稗古場窯跡、禅門谷窯跡、掛の谷窯跡、山辺田窯跡、小溝窯跡、柿右衛門窯跡ほかです。

各窯の調査報告は１～10号で更に詳細に渉り当館の村上・野上学芸員等により報告されており、発掘された陶片は有田焼参考館で見ることができます。

「有田の古窯」と共に、お読みいただければ幸いです。

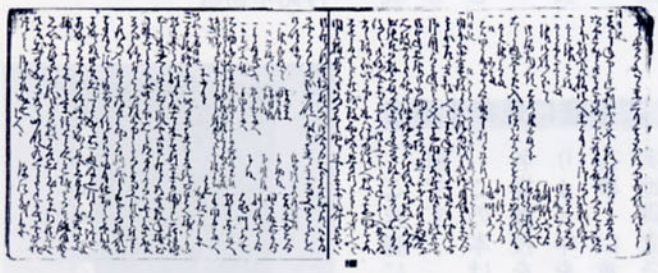
Ｂ５判381頁　5,250円
1998年初版

「皿山代官旧記覚書」を読んでみませんか

今年度の古文書教室では有田の歴史を物語る第一級の史料「皿山代官旧記覚書」を読みはじめました。すでに昭和４１年に池田史郎先生によって活字化されていますが、発行後３３年が経ち今ではその活字本を入手することも困難になっています。また、原本（鍋島報效会所有・佐賀県立図書館蔵）を読むことによって、より身近に江戸時代の有田を知ることもできます。原本は江戸時代特有のくずし字で書かれていますが、一人の人によって書かれたものらしく、その癖をつかめば何とか読めるようになると思います。

講師の前山博先生は有田・伊万里の歴史の第一人者でもあり、先生の解釈による「前山本」と「池田本」の比較を交えながらの授業は、単に古文書教室の時間というだけでなく、有田を学びたいという方にもぜひおすすめの時間です。

古文書教室は毎月第二水曜日、午後１時３０分から３時３０分まで開催しています。参加希望の方は有田町歴史民俗資料館（☎43-2678）までご連絡ください。



「皿山代官旧記覚書」

できたよ！町並みの模型

昨年度の事業で安政６年の古地図をもとに、皿山の町並みの模型作りをしましたが、ボランティアのみなさんの努力によって往時をしのばせる町並みが再現できました。現在有田町歴史民俗資料館のエントランスホールに展示しています。

当初の計画では子供たちに家作りを担当してもらう予定でしたが、この町並みの縮尺では一軒一軒の町家が小さくてできませんでした。そこで、この夏休みに子供たちに町家の模型（１００分の１縮尺）作りを呼びかけ、8月21、22の2日間にかけて実施しました。

有田の町並みは江戸時代から昭和にかけて、各時代の特色を持った町家が残っているということが大きな特徴です。子供たちは各時代の最も典型的な町家の図面をもとに模型作りに挑戦しました。細かな作業でしたが、さすがに有田の子供たちはとても器用でした。一人で３軒も作った子もいて、それぞれ工夫をこらして作業を進めていました。出来上がった作品は夏休みの宿題のひとつになり、学校へ提出されました。

子供たちによる町家作り

写真を撮ろう・写真を残そう

「ふるさと有田」の自然・暮らし・なりわいも徐々に変化しています。秋の皿山祭りも、今年は７区が当番で賑やかになることでしょう。

お手持ちのカメラで、身近な出来事を写しませんか。今年中の写真（サービスサイズ）を、町内の写真店を通じて、当館へお送りください。

明春、ご提供いただいた全作品を展示し、それらは歴史民俗資料として当館で保存されます。

優秀作品は、町長賞など表彰され、広報で紹介されます。

谷口藍田先生記念碑が白川に

皆様ご存知の儒学者・谷口藍田は白川で文政５年（1822）に生まれました。日田・咸宜園、江戸・昌平坂学問所で学び、29歳で白川に白水書院を開校しました。その後鹿島藩校や江戸で教育にあたります。

彼の功績を称える為、藍田ゆかりの人達で、白川に記念碑建立の準備が進められています。詳しくは当館へお問い合わせください。

（久富）

季　刊『皿　山』

通巻47号（平成12年９月１日）
編集・発行　有田町歴史民俗資料館

〒844-0001　佐賀県西松浦郡有田町泉山1丁目4-1
☎0955-43-2678　FAX0955-43-4185